

第6回嘉麻市総合計画策定審議会 議事録

- 1 会議等の名称 第6回嘉麻市総合計画策定審議会
- 2 開催日時 令和8年9月24日(木) 午前10時00分～
- 3 開催場所 嘉麻市役所 本庁舎5階5A会議室
- 4 公開または非公開の別 公開
- 5 出席者

(1) 出席委員

学識経験者	井原 徹
嘉麻市誘致企業振興会	豊田 晃久
株式会社福岡銀行	松井 英之
自治労嘉麻市職員労働組合	松尾 弘子
嘉麻市行政区長連合会	松岡 康則
嘉麻市PTA連合会	木下 真智子
ふくおか嘉穂農業協同組合	平畑 英幸
一般公募	志水 真由美
一般公募	皆川 遼

(2) 欠席委員

嘉麻・桂川保育協会	溝口 恭子
嘉麻市観光まちづくり協会	中村 瑠梨
九州テレ・コミュニケーションズ	中村 香織
(株式会社ケーブルステーション福岡)	

(3) 執行機関

総合政策課企画調整係	課長	小林 純一	課長補佐	伊藤 一洋
	係長	藤内 優	主任	香田 潤佑
	担当	犬丸 亮子		

〔総合計画策定支援委託業者：株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所〕
和宗 森山

- 6 傍聴人数 0人
- 7 議題及び審議の主な内容

【報告】

第3次嘉麻市総合計画策定にかかる市民意見聴取の実施結果と基本構想への反映について

【協議】

第3次嘉麻市総合計画基本構想（素案）について

【その他】

嘉麻市総合計画策定審議会の開催日程について

8 配布資料

- (1) 第6回嘉麻市総合計画策定審議会レジュメ
- (2) 委員名簿（令和8年9月24日現在）
- (3) 資料1 第3次嘉麻市総合計画策定にかかる市民意見聴取の実施結果と基本構想への反映について
- (4) 第3次嘉麻市総合計画に関する団体ヒアリング調査結果報告書（最終版）
- (5) 資料2-1 基本構想 骨子案と素案の対比表

(6) 資料 2-2 第 3 次嘉麻市総合計画基本構想（素案）

9 議事内容

【報告】

(1) 第 3 次嘉麻市総合計画策定にかかる市民意見聴取の実施結果と基本構想への反映について

事務局が資料を用いて説明

- ・団体ヒアリング調査結果報告書は、前回（第 5 回）に速報版として示したものであり、今回、最終報告書として提出した。概要は前回までに説明しているため、説明は省略した。
- ・令和 7 年度の市民アンケート、市民ワークショップ、女性 100 人会議、団体ヒアリング等を通じて、さまざまな分野の市民から意見や課題を聴取してきた。資料では、各市民意見聴取の結果と、基本構想の策定にあたり注視した課題の整理と考え方をまとめた。
- ・第 3 次計画では、第 1 次・第 2 次計画の枠組みを基本的に踏襲しつつ、新たに位置付ける視点として、地域ブランディング、多文化共生・国際交流、ジェンダー平等、デジタル技術の活用を示した。

【主な質疑及び意見等】

<質疑>

- ・市の将来像として示された「自然とつながり、人がつながり、世代をつなぐ。挑戦するまち、嘉麻」は、仮のものか。
⇒これまでの委員の意見、市民ワークショップ、市民アンケート等の市民意見聴取で得た意見を踏まえて設定した案であり、基本的にはこの将来像で進めたい。今後の議論を通じて文言を整理し、正式な表現として定式化したい。
- ・将来像は、これまでの会議や市民意見の内容をまとめたものか。
⇒将来像そのものに対する直接の意見はなかったが、市民が感じる嘉麻市の良さや課題などを取りまとめて設定した。
- ・新たな視点として追加した、地域ブランディング、多文化共生、ジェンダー平等、デジタル活用のねらいは何か。
⇒地域ブランディングは、ワークショップ等でも意見が多く、交流人口を増やすために知名度を高める必要があると考えたものである。食や農産物に自信を持つ市民も多く、嘉麻市らしさを発信していくことを位置付けた。多文化共生は、外国人の力が地域や行政の力を高めるうえで必要との認識から位置付けた。ジェンダー平等は、市長の意見も踏まえ、女性が働きやすい環境づくりが地方創生を考えるうえで重要な視点であるため、位置付けた。デジタル活用は、人口減少や担い手不足が進む中で、社会のシステムを維持するうえで必要不可欠であるため、位置付けた。
- ・第 1 次・第 2 次総合計画で、具体的に何が実現されてきたのか。
⇒第 1 次計画は合併直後の 10 年間を対象とし、地域間の水準差を埋めながら一体感を醸成すること、行財政改革を進めることが主な内容で、庁舎の位置や、まちづくりのあり方が大きな論点であった。第 2 次計画では、定住・関係人口の拡大を掲げ、定住支援、教育施策、地域ごとのゾーニング、庁舎の整備、民間企業との共創などを進めてきた。交通では、市バスの再構築やデマンド交通化に取り組み、教育では、少人数学級など教育の魅力向上に取り組んだ。一方、全国的な人口減少の中で、期待したほどの成果を上げられていない面もある。交通は、第 1 次計画から続く課題である。
- ・既存の施設や基盤が整備された後、市民がそれを使いこなす、新しい価値を生むには時間を要する。今後は、ハード整備に加え、ソフト施策や知識、地域活動、経済状況に対応した仕組みづくりを重視する転換期にあるのではないかな。過去の計画で残された課題を整理し、次期計画へ引き継ぐ形が望ましい。

【協議】

(1) 第3次嘉麻市総合計画基本構想（素案）について

事務局が資料を用いて説明

- ・ 前回（第5回、8月19日）に骨子案を示して以降、庁内の策定委員会と、3つの専門部会での協議を経て、基本構想（素案）を作成した。対比表は、前回までに示した範囲（序論から、まちづくりの視点まで）の変更点を示すものであり、それ以降の部分は今回初めて示す。
 - ・ 序論・現状分析のデータは、現時点で入手可能な最新値に更新した。新たなデータが得られ次第、差し替える。第3次計画の策定目的を追記し、交通体系や行財政に関する記述は担当課と協議のうえ文言を修正した。「時代の潮流」は分かりにくい表現を修正し、GXに注釈を加えた。観光入込客数は、これまで県が各市町村に依頼して調査していたが、調査が行われなくなり、最新データを示せないため削除した。今後は別の方法でデータを把握する予定である。
 - ・ まちづくりの主要課題のうち、課題2（産業振興と拠点活性化）と課題5（住環境の整備と地域コミュニティの再編）に、外国人住民の増加を踏まえた多文化共生・外国人材に関する内容を追加した。
 - ・ 将来像は、前はキーワードの提示にとどまっていたが、今回、「自然とつながり、人がつながり、世代をつなぐ。挑戦するまち、嘉麻」として成文化し、設定の考え方を記載した。人口減少・少子高齢化が進み厳しい状況にある一方、市民からは、豊かな自然、ふるさとへの愛着、人と人とのつながりを大切にしたいという前向きな意見が多く聞かれた。自然、人、世代のつながりを嘉麻市の強みとして捉え、市民一人ひとりがまちづくりの担い手として新たに挑戦していく思いを込めた。
 - ・ まちづくりの視点として、「将来を見据えた段階的なまちづくり」「地域の資源を活かし、地域の魅力を高める」「目的に応じた柔軟な連携によるまちづくり」「健全な行財政運営」の4つを示した。
 - ・ 目標人口は、令和7年度に策定した嘉麻市人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略の目標人口との整合を図り、同戦略の数値を記載した（2065年に総人口17,000人を維持・確保することを目指す）。人口の量のみを追わず、誰もが安心して暮らし続けられる持続可能なまちづくりを目指す。
 - ・ 土地利用の方針は、第2次計画を基本的に踏襲した。新庁舎の供用開始、交通体系の再編、4地区の地域拠点の位置付け、地域特性に応じた土地利用を記載しており、文言の修正は行ったが、市全体の土地利用が大きく変わるものではない。
 - ・ 施策の体系は、将来像の実現と、人口減少をはじめとする主要課題の解決に向け、第2次計画と同様に5つの基本方針の枠組みを引き継ぎ、新たに加える要素や力を入れる部分を反映して文言を修正した。基本施策は計30項目である。
- I 自然の恵みを活かし、挑戦がうまれる産業・にぎわいのまちづくり
- II 誰もが安心して健やかに暮らせる、支え合いの福祉のまちづくり
- III ふるさとへの誇りと未来を担う力を育む教育・文化のまちづくり
- IV 自然とつながり、安全で快適に暮らせるまちづくり
- V 人と人がつながり、共に創る協働と行財政運営のまちづくり
- ・ 教育・文化の分野では、子どもたちが将来嘉麻市を離れても、いつか帰ってきたいと思えることを、人口減少対策の重要な点として位置付けている。地域交通は、市民アンケートで最も多く挙げられた課題であり、デマンド交通など多様な手段やデジタル技術も活用した持続可能な交通体系の構築を進める。

- ・この基本構想をもとに、今後、基本計画において各分野の具体的な施策や取組を推進する。本日の審議会の内容をもとに必要な修正を行い、パブリックコメントを実施し、基本構想の素案について市民の意見を伺う予定である。

【主な質疑及び意見等】

＜質疑＞

- ・施策が 30 項目ほどあり多いため、優先順位を付け、目玉となる取組を明確にすべきではないか。
⇒交通、買い物、雇用対策は、特に重要な課題として認識しており、市長とも協議している。一方、総合計画は、市全体にかかわる多くの重要施策を漏れなく位置付ける性格のものであり、基本構想では横並びで整理する。具体的な優先順位は、基本計画での施策の具体化や毎年度の予算編成を通じて判断していく。
- ・施策の体系にある農林業分野の「ブランディング」とは、何をするのか。
⇒「嘉麻市」と言われても、飯塚市の隣、田川市の隣といった説明でなければ場所が伝わりにくい。まず嘉麻市を知ってもらわなければ、移住や居住にもつながらない。地域の特性や強み（自然、食、農産物など）を明確にし、「嘉麻市といえば何か」が市外にも伝わる形にしていく取組である。移住や交流人口の増加、民間事業者の進出、地域産品の価値向上につなげたい。
- ・「地域のブランド化」と「ブランディング」という用語が混在しており、意味が分かりにくい。
⇒ブランド化を進めることを、動詞的に「ブランディング」と表現している。分かりにくいとの指摘を踏まえ、庁内で用語の使い方を整理する。
- ・外国人材の受入れが重要性を増すと考えられるが、多文化共生や地域コミュニティの整備に加え、外国人が来やすい環境（住居の確保を含む）を整える必要がある。介護、農林業、製造業等の担い手確保にもかかわる課題であり、意見として参考にしてほしい。
⇒意見を踏まえ、今後の修正に反映する。本日の意見やパブリックコメントでの意見を踏まえ、次回、修正したものを基本構想案として示す。
- ・第一次産業就業者の割合が高いという嘉麻市の特徴が、施策体系のどこにつながっているのか分かりにくい。
⇒資料上で説明のつながりが十分に示せていない。内容を再検討し、必要に応じて修正する。
- ・将来像（15 ページ）において、従来の計画にはない新たな要素が示されている点が、今回の総合計画の特徴という認識でよいのか。
⇒そのとおりである。ワークショップの中で、厳しい課題が多い状況でも、市民が嘉麻市のために諦めずに取り組んでいる姿が印象的であった。特に中学生から「嘉麻市にずっと住みたい」という声があり、それに応える言葉を入れたいという思いがあった。市長とも打ち合わせを行い、将来にわたって自然豊かな嘉麻市を守っていくため、市民意見聴取でも出た「挑戦」という言葉をあえて入れた。市民も含め、全員で取り組んでいこうという考えである。
- ・「挑戦するまち」を掲げているが、施策の体系（21 ページ）の今後の取組からは、どこが挑戦的なのか見えにくい。継続して取り組む施策と、挑戦的な施策を分けて示すべきではないか。
⇒地域ブランディングや多文化共生など、これまで十分に取り組んでこなかった分野に取り組むことは、挑戦的な取組と考えている。「挑戦」という将来像の言葉と各施策のつながりが分かるよう、見せ方を工夫する。
- ・基本構想に、「挑戦」をより強く書き込むべきではないか。
⇒基本構想は議会の議決を要する、大きな方向性を示す文書であり、自然、人、つながり、挑戦という共通の方向性を掲げることが適切と考えている。特定の施策だけを強調すると、

ほかの重要施策とのバランスを欠くおそれがある。そのため、特に新しい取組や重点施策は、基本計画の中でそれと分かるように見える化していく。

- ・施策の体系（21 ページ）などに、これまでの取組で解決できなかった課題や、嘉麻市固有の問題が十分に表現されておらず、全国どの地域にも通用する文章となっている。過去の施策の成果と、残っている課題を含めて記載すべきではないか。

⇒基本構想は 10 年間の大きな方向性を示すものであり、人口減少、住民参画、財政などの課題は序論で整理している。今後、前期 5 年・後期 5 年の基本計画を策定する際に、現状値、課題、具体的な施策、目標数値などを示す。さらに、実施計画では事業ごとの内容や進捗を確認できるようにする。第 2 次計画の振り返りも、第 3 次の基本計画を策定する中で示し、補完しながら議論していただく機会を設ける。

- ・A I やデジタル化に関する表現は、効果が見えないまま用いると、将来的に問題となるおそれがある。業務改善やD Xは今後も必要と考えられるが、生成A I等については、具体的な効果や用途が見える場合に限定して用いるなど、記載に注意すべきではないか。

⇒意見を受け止める。時代の潮流として記載している部分もあるため、今後の状況や具体的な効果を見ながら、適切な表現となるよう検討する。

- ・パブリックコメントでは、計画本編だけでは市民に内容が伝わりにくく、意見が集まりにくい。大見出しや図表を用いた、見やすい資料（概要版）を用意してほしい。

⇒市民説明会では限られた時間で説明する必要があるため、説明用資料を作成する予定であった。今回の意見を踏まえ、可能な限り早い段階で、概要版と本編を用意したい。パブリックコメントの開始時点に間に合うかは、作業状況を見て判断する。

- ・事務局から、概要版の分量や形式について、どの程度であれば見やすいか意見を求めた。

⇒（委員）文字を大きくし、図表や市民アンケートの結果を用いて、重要な点が一目で分かる構成であれば、20～30 ページ程度でも読みやすい。

- ・概要版を作成しても、パブリックコメントへの反応があるかという課題がある。そもそも市民の意見を出す意識が低いのではないか。

⇒嘉麻市自治基本条例に基づき、市の重要な計画、条例、制度の新設・改廃については、市民への情報提供とパブリックコメントが必要である。意見が 0 件の場合は、市民に意見がないのか、資料が分かりにくくて意見が出せないのかを検討する必要がある。情報提供の分かりやすさは、別の組織でも課題として扱われており、今回の総合計画では、分かりやすいパブリックコメントの模範となるよう工夫したい。

【その他】

事務局より、

- ・審議会の開催日程について、第 7 回は 11 月 9 日（月）午後 1 時 30 分から、第 8 回は 2 月 17 日（水）午前 10 時 00 分からの開催とし、詳細は改めて案内する。
- ・基本構想（素案）について、審議会での意見を踏まえて修正のうえ、パブリックコメントを約 1 か月間実施する予定であり、実施時期は 10 月 1 日からとする。
- ・10 月末に市民説明会を開催する。